



## 2026年9月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年5月14日

上場会社名 株式会社Laboro.AI 上場取引所 東  
 コード番号 5586 URL https://laboro.ai/  
 代表者（役職名） 代表取締役CEO（氏名） 椎橋徹夫  
 問合せ先責任者（役職名） 代表取締役COO兼CTO（氏名） 藤原弘将（TEL）03-6280-6564  
 半期報告書提出予定日 2026年5月14日 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有

（百万円未満切捨て）

## 1. 2026年9月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年10月1日～2026年3月31日）

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期中間期	1,326	—	211	—	214	—	149	—
2025年9月期中間期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2026年9月期中間期 149百万円(—%) 2025年9月期中間期 ー百万円(—%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期中間期	9.38	9.24
2025年9月期中間期	—	—

(注) 2025年9月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2025年9月期中間期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年9月期中間期	3,090	2,708	87.6
2025年9月期	2,813	2,547	90.6

(参考) 自己資本 2026年9月期中間期 2,707百万円 2025年9月期 2,547百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年9月期	—	0.00	—	—	—
2026年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2026年9月期の連結業績予想（2025年10月1日～2026年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,486	30.8	294	53.6	294	76.8	201	36.9	12.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年9月期中間期	15,947,051株	2025年9月期	15,918,577株
2026年9月期中間期	38株	2025年9月期	38株
2026年9月期中間期	15,934,659株	2025年9月期中間期	15,896,735株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手について)

当社は、2026年5月18日(月)に機関投資家及びアナリスト向けに、2026年5月23日(土)に個人投資家向けに説明会(ウェブ)を開催する予定です。なお、当日使用する決算説明資料は、TDnet及び当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローに関する説明	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(重要な後発事象)	8
(セグメント情報等の注記)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「すべての産業の新たな姿をつくる。」「テクノロジーとビジネスを、つなぐ。」をミッションに掲げ、各業界の代表的な企業との協働を通し、企業や産業、そして社会の長期的・本質的な構造転換に貢献することを目指しております。

当中間連結会計期間における我が国の経済環境は、景気が緩やかに持ち直されてきている一方で、米国の追加関税及び対イランの軍事行動等の動きや国内外マクロ経済におけるインフレ・金融引き締め、持続的な物価上昇などの結果、金融市場や景気動向は先行き不透明な状況が続いております。

このような中、当社グループが属する国内AIソリューション市場においては、「ChatGPT」をはじめとする大規模言語モデルの技術革新の進捗や自律的に業務を遂行するAIエージェントに関する社会的な関心の高まりなどの結果、企業の競争力強化や人材不足への対応から幅広い産業で積極的なDX（デジタルトランスフォーメーション）投資が行われており、事業環境は堅調に推移しております。

なお、当社グループは前第3四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較分析は行っていません。

#### (売上高)

売上高の主要な割合を占めるカスタムAIソリューション事業において、堅調な顧客のDX投資需要を捉えたこと、プロジェクトの営業及び執行を担うメンバーの体制構築が進んだことで、営業活動が順調に進捗し、新規顧客件数は5件となるとともに、売上は堅調に推移しました。

以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は、1,326,196千円となりました。

#### (売上原価、売上総利益)

売上原価は、446,425千円となりました。主な内訳は、労務費及び業務委託料であります。

以上の結果、売上総利益は879,770千円となりました。

#### (販売費及び一般管理費、営業利益)

販売費及び一般管理費は668,031千円となりました。これは主に、カスタムAIソリューション事業において、プロジェクトの推進を担うソリューションデザイナー及びエージェントトランスフォーメーションプロデューサー、エンジニアを中心に積極的な採用活動を実施した結果に伴う人件費及び研修採用費が主要な構成を占めております。

以上の結果、営業利益は211,739千円となりました。

#### (営業外損益、経常利益)

営業外収益は2,718千円、営業外費用は9千円となりました。

以上の結果、214,447千円の経常利益となりました。

#### (特別損益、中間純利益)

当中間連結会計期間における特別損益の計上はありませんでした。

以上の結果、当中間連結会計期間の税金等調整前中間純利益は214,447千円となり、法人税等を64,976千円計上したことにより、親会社株主に帰属する中間純利益は149,470千円となりました。

セグメント別の業績は以下の通りです。

#### ① カスタムAIソリューション事業

当中間連結会計期間は堅調な顧客のDX投資需要を捉えたこと、プロジェクトの営業及び執行を担うメンバーの体制構築が進んだことで、営業活動が順調に進捗し、5件の新規顧客を獲得するとともに、売上高が堅調に推移しました。

また、堅調な市場環境を企業成長の機会と捉え、積極的な採用活動に注力しました。特にプロジェクトの推進を担うソリューションデザイナーとエージェントトランスフォーメーションプロデューサー、エンジニアの体制拡大が順調に進捗し、人件費及び研修採用費がコストの主要な構成を占めております。

以上の結果、売上高は1,302,316千円、セグメント利益は208,751千円となりました。

#### ② システム開発事業

当中間連結会計期間は複数の受注案件が検収を迎え、売上が進捗いたしました。当社の受託した案件にて株式会社CAGLAが一部開発を担うなど協働が進捗した他、足元では当社がHP等経由で受けた開発プロジェクトに関する問い

合わせで、システム開発色の強い引き合いを株式会社CAGLAに連携することで、グループ全体のシナジー創出に向けた取組みを加速化させております。

プロジェクトの推進に必要なデベロッパーやデザイナー等の人件費がコストの主要な構成を占めているとともに、のれん償却等も計上しております。

以上の結果、売上高は47,090千円、セグメント利益は2,387千円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当中間連結会計期間末における資産合計は、3,090,475千円となり、前連結会計年度末より277,153千円増加しました。流動資産は2,911,411千円となり、固定資産は179,064千円となりました。流動資産の主な内訳は、現金及び預金1,883,822千円、売掛金及び契約資産996,278千円であり、前連結会計年度末からの主な変動要因は、売上増加に伴う売掛金及び契約資産の増加であります。固定資産の主な内訳は、有形固定資産70,442千円、投資その他の資産43,858千円であり、前連結会計年度末から重要な変動はありません。

### (負債)

当中間連結会計期間末における負債合計は、382,304千円となり、前連結会計年度末より116,930千円増加しました。流動負債は381,039千円となり、固定負債は1,265千円となりました。流動負債の主な内訳は、未払法人税等82,588千円、買掛金43,141千円であり、前連結会計年度末からの主な変動要因は、未払法人税等の増加等でありませ

### (純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は、2,708,170千円となり、前連結会計年度末より160,223千円増加しました。主な内訳は、資本金1,019,558千円、資本剰余金1,009,558千円、利益剰余金678,783千円であり、前連結会計年度末からの主な変動要因は、中間純利益の計上に伴う利益剰余金の増加であります。

## (3) キャッシュ・フローに関する説明

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末と比較して165,002千円減少し、1,883,822千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、163,140千円の支出となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益214,447千円及び売上債権及び契約資産の増加443,770千円等によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、11,614千円の支出となりました。これは有形固定資産の取得に伴う支出によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、9,752千円の収入となりました。これは、主に新株予約権の行使による株式の発行による収入10,752千円によるものであります。

## (4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年9月期の業績予想につきましては、2025年11月12日公表の「2025年9月期決算短信」から変更ありません。売上高は堅調に推移し期初予想を上回るペースで進捗しておりますが、現時点では通期の着地は期初予想からの大きな変動は想定しておりません。また、売上の進捗に伴う増益については、中長期的な企業価値向上を目的とした体制構築や技術資産開発等の戦略的な成長投資に充当する予定です。このため、各利益項目における期初予想についても、現時点で変更はありません。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,048,825	1,883,822
売掛金及び契約資産	552,508	996,278
仕掛品	1,905	124
その他	20,422	31,185
流動資産合計	2,623,661	2,911,411
固定資産		
有形固定資産	81,105	70,442
無形固定資産		
のれん	59,400	55,440
その他	10,287	9,322
無形固定資産合計	69,688	64,763
投資その他の資産	38,866	43,858
固定資産合計	189,660	179,064
資産合計	2,813,321	3,090,475
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	23,067	43,141
賞与引当金	1,128	1,406
未払法人税等	66,315	82,588
1年内返済予定の長期借入金	1,336	337
その他	173,527	253,565
流動負債合計	265,374	381,039
固定負債		
その他	—	1,265
固定負債合計	—	1,265
負債合計	265,374	382,304
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,014,181	1,019,558
資本剰余金	1,004,181	1,009,558
利益剰余金	529,312	678,783
自己株式	△45	△45
株主資本合計	2,547,631	2,707,854
新株予約権	316	316
純資産合計	2,547,947	2,708,170
負債純資産合計	2,813,321	3,090,475

## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位：千円)

	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
売上高	1,326,196
売上原価	446,425
売上総利益	879,770
販売費及び一般管理費	668,031
営業利益	211,739
営業外収益	
受取利息	2,175
その他	542
営業外収益合計	2,718
営業外費用	
支払利息	9
営業外費用合計	9
経常利益	214,447
税金等調整前中間純利益	214,447
法人税、住民税及び事業税	69,247
法人税等調整額	△4,271
法人税等合計	64,976
中間純利益	149,470
親会社株主に帰属する中間純利益	149,470

## 中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
中間純利益	149,470
中間包括利益	149,470
(内訳)	
親会社株主に係る中間包括利益	149,470

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前中間純利益	214,447
減価償却費	22,497
敷金償却費	394
のれん償却額	3,960
顧客関連資産の償却額	745
受取利息	△2,175
支払利息	9
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	△443,770
賞与引当金の増減額(△は減少)	278
仕入債務の増減額(△は減少)	20,074
未払消費税等の増減額(△は減少)	25,261
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	46,026
その他	△82
<b>小計</b>	<b>△112,332</b>
利息の受取額	2,175
利息の支払額	△9
法人税等の支払額	△52,974
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△163,140</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△11,614
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,614
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入金の返済による支出	△999
新株予約権の行使による株式の発行による収入	10,752
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,752
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△165,002
現金及び現金同等物の期首残高	2,048,825
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,883,822

## (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

当中間連結会計期間(自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	中間連結損益 計算書計上額 (注2)
	カスタムAIソ リューション 事業	システム開発 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,302,316	23,880	1,326,196	—	1,326,196
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	23,210	23,210	△23,210	—
計	1,302,316	47,090	1,349,406	△23,210	1,326,196
セグメント利益	208,751	2,387	211,139	600	211,739

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額△23,210千円は、セグメント間取引消去△23,210千円であります。

(2) セグメント利益の調整額600千円は、セグメント間取引消去600千円であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

該当事項はありません。